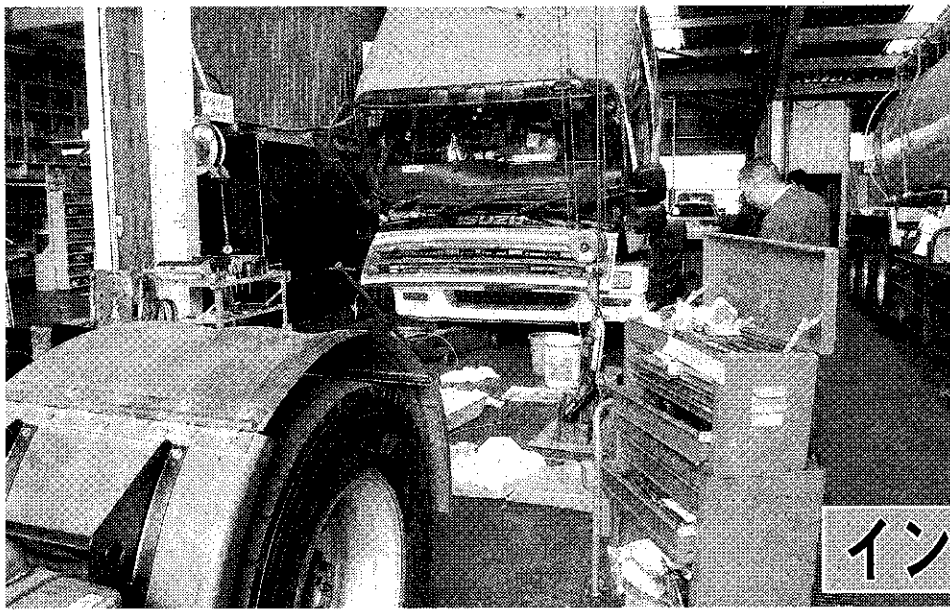


整理整頓が行き届いた工場内



分かりやすいユーザーインターフェース



インターサポート製「G-scan」

スキャンツール導入工場ルポ

いづみ自動車(千葉県市原市)

全拠点に配備 取引先から厚い信頼

生き残りには必須

大型車を中心に一般整備、車体整備、電装整備、塗装などの各事業を展開するいづみ自動車(田村社長、本社千葉県市原市)は、10年以上も前にスキャンツールを導入した。しかしながら、大型車

診断結果「レポート」で顧客に

した結果を「整備レポート」として顧客に提出している。こうした車両の状態をデータで示すのは、安心して乗ってもらえるようにという配慮でもある。整備レポートの発行は毎月約40〜60枚程度にもなるといふ。

技術研修でレベル引き上げ

「レポ」部車輛セクションの佐久間英明次長は「新人が読み取り消去に至るまで、どこまで使いこなせているか。まだまだ課題は多い」と気を引き締める。新人がベテランの域に達するには時間や経験が必要とする一方で、社内の休憩所にはパソコンを設置して日本自動車整備振興会連合会の「FAINES」を見られるようにするなど社員自身が情報を確認したり、学んだりできる環境も整えている。

用データの不備などで活用しきれなかったが、インターサポート製のスキャンツール「G-scan」を同業者で紹介され、一気に2台導入した。その後、3拠点全てに配備して積極的に業務に活用している。「スキャンツールを導入してこない自動車整備工場は今後ますます生き残ることが難しくなる」と田村社長は言い切る。

佐久間英明次長
田村社長



使い勝手に優れている「G-scan」を活用

感謝される工場に

一方でスキャンツールが接続できないトラック・バスがまだまだ現役で走っているが「G-scanは他社製品と比較しても使いやすく、技術研修会なども行っているためスキャンツールを導入していない整備工場にも勧めたい」と(田村社長)と話す。

「G-scan」は他社製品と比較しても使いやすく、技術研修会なども行っているためスキャンツールを導入していない整備工場にも勧めたい」と(田村社長)と話す。

売って終わり

に操作が行えるウィンドウズ ターを拡張する中で、大きな8への対応は年内に行う予定 気づきが得られたと思う。所得し料金を払ってもらおう。そ



期間限定特別キャンペーン

下取 or 値引

絶賛開催中!

限定 100台

どんなスキャンツールでも

下取